

12月定例教育委員会会議録【概要版】

開催年月日	令和6年12月25日（水）	場 所	市役所本庁 災害対策本部室
開催時間	13時30分 から 14時30分まで		
出席者	教育長	高森 賢一	
	教育委員	宮田 靖、久世由美子、甲斐千尋、（※遠田真央委員欠席）	
	参 与	丸山真二、工藤靖治、竹光俊司、岩佐正文、佐藤健一郎、早瀬誠一郎、 吉田尚良、田崎俊久、山本栄作、太田康晶、岡田健一、田中政秀	

◎ 開 会

高森教育長が開会を宣した。（13時30分）

◎ 会議録の承認

11月20日（水）に開催された11月定例教育委員会の会議録が承認された。

◎ 事務報告

◆教育長より以下の業務報告が行われた。

- ・ 岡富小学校訪問
- ・ 多様化学校熊野江教室、オンライン学習教室訪問
- ・ フリースクール「ヒノワ」訪問
- ・ 12月議会一般質問
- ・ 校長会要望事項聞き取り・協議
- ・ 多様な学びを考える会
- ・ 子ども達が考えるスマートコミュニティヶ岡発表会

◆教育委員より以下の報告が行われた。

- ◎) 12月の社会教育課の事務報告にも記載があるが、12月14日に土々呂地区の青少年育成大会があり、地域の住民として参加したので感想を申し上げたい。内容は講演と土々呂中学校吹奏楽の演奏、地区内の小中学校の代表児童生徒の意見発表だった。子どもたちの発表も、防災のことや友達のこと、そして、地域の発展のためにできること、平和な世界を目指して、それぞれ素晴らしい発表であった。そういった子どもたちの発表を聞いて、それぞれの学校で先生方がしっかり指導されている様子も伝わってく

るものであった。大会は中学校区の青少年育成連絡協議会の主催で実施されたもので、協議会の会長や役員の皆さん、そして地域の皆さんが、学校を支えていこうというような姿勢がとても感じられるもので、すごくいいなど思っていたが、参加者がもう少し多くなるとさらに盛り上がった大会にはなっていくのではないかなと感じたところであった。終わった後に、高橋会長とも話をしたが、当日の参加が180名だったということで、やっぱり会長の方も、もう少し保護者の方々の参加があるといいのかなというような話はされていた。10月の定例教育委員会の協議題が学校・家庭・地域の連携のあり方ということだったが、やはりこうした子どもたちの成長を支えていく社会を実現していくためには、改めて学校、家庭、そして地域の連携、協働体制の構築がこれから大切かなあというのを感じたところであった。子どもたちの発表にも、地域の皆さんに支えられているという感謝の気持ちを表す内容もあった。やはりいろいろな地域の中にはこうした子どもたち自身も、感謝だと感じている見守り隊の皆さんや読み聞かせの方々など、関わりを持たれている方もたくさんいるわけで、こうした学校を核とした地域力を強化していくためにも、やはりこうした支えとなっている、それぞれの地区の青少年育成連絡協議会等の活動をしっかり後押ししていくような支援体制もこれから大切になっていくんじゃないかなと感じたところである。あわせて、前回の説明でもあった、地域学校協働活動事業や放課後子ども教室推進事業など、市教委が関わっている部分があるが、こうしたものの充実をさらに進めていくといいのかなという感想を持ったところである。

◎) 12月の始めに、来年の講演会についての打ち合わせがあった。12月12日は宮崎県教育委員会のリモートでの会議に参加した。その時に思ったのは、こういう教育委員会の中で、リモートで県の方々や市内の方々と話ができるといいなという感想を持った。また、よその方々についても、こういう定例会でどういうことを話されているのかなっていうのを1回見てみたいなとも思った。リモートは初めてのことだったが、そのとき10分ぐらいなかなかうまくいかなくて、やっとうまくいくようになって、最後は時間がなくなって、だんだん早くなっていったような気がしたので、そういうのじゃなくて、やっぱりしっかりやれるといいなとは思った。でもやっぱりリモートではなく、顔を見てやりたいなと思った。今日、来年県のプールの落成式に入ってもらえないかという打ち合わせがあったので、行ってみようかなと思っている。そういう打ち合わせ等で少し時間を取ったかなと思う。

◎) 11月21日、高森教育長と岡富小学校を訪問した。やっぱり街場の子どもたちは挨拶がよくできて明るかった。それから、先生方がまとまってい

て、協調性のある教育活動をされているなどというのを感じた。そのあとに、今度は午後から河野知事との本音トークというものがあり、延岡の市内の業者 12 社、これは工業系。それから福祉、漁業、山林、IT 関係者が集まっている話をしたが、大半が要望事項で、延岡をこうしようっていう夢のある話っていうのはあまりなかったような気がする。自分の会社はクレアパーク延岡工業団地の方に大武町から移転したが、そういう高台の工業用地などを開発してもらって、市内の業者さんたちも、広々とした工業団地の中で仕事をしてもらおうとまた雇用が増えるという話をした。11 月 22 日には、市議会へ教育委員の就任挨拶に行った。11 月 30 日は、新田原航空自衛隊の航空祭に行った。自社で製造している防衛省向けの部品があり、自社が製作した降着装置の一部が飛行機につけられているっていうのを見て、とても誇らしく思った。12 月 5 日には島野浦学園を訪問したが、今、島の人口が 667 名だったか、年々減少しているそうだが、1 年から 9 年生までの 18 名。職員数が 16 名、だいたい一対一ぐらいの感じだが、1 年生から 9 年間、同じように繰り返しそこで勉強できることっていうのは、非常に島の子どもたちは幸せだろうなど。特に一対一の勉強が多いようだったが、学力テストも平均値よりも上だった子どもたちがいっぱいいて、そういう面では、やっぱり少数の教育活動っていうのもいい面があるんだろうと思う。ただ島民が 667 名で減少気味ということで、年々減っていく中の教育活動っていうのは、どうされるのかなと思って、先行きがなんか不安な感じがした。それから 10 月豪雨災害で、浦城町で 1 人亡くなったが、浦城に車をとめていた島野浦学園の先生方のうち 8 名が浸水被害を受けていた。中には 1 人新車を買ったばかりという方もいたので、ちょっと意気消沈している、そういうものも行って初めて分かった。12 月 10 日は、延岡工業高校の 1 年生 43 名が会社訪問してきたが、高校 1 年生ぐらいになるといろいろと会社訪問をして、工業系の学校だから、こういう素材からこういう加工ができて、こういうふうにしてものが作られるんだっていう工程を見て、みんなびっくりしていた。ただ実習課程の子どもたちだから、まだまだ世間知らずっていうか、もっともっといろんな工場に行って、視野を広げてもらおうと、将来を担う良い若者たちに育てくれるんじゃないかなと思った。

◆各課からの事務報告

- 学校教育課長より、11 月 28 日のコミュニティ・スクールフォーラム、12 月 16 日の第 2 回延岡市アウトリーチ懇談会や 11 月期の生徒指導に関する状況等について報告があった。

◆補正予算報告

- 各課長より、12月議会に上程した補正予算の概要について報告があった。

◆12月議会一般質問報告

- 教育政策課長より、12月議会における一般質問について、6名の議員から、新教育長の所信や学校教育などに関する計12問の主質問があった旨の報告があった。

◎ 議 事

◆議案第19号 令和6年度延岡市善行児童生徒全体表彰者の決定（学校教育課）

- 学校教育課長より、令和6年度延岡市善行児童生徒全体表彰者の決定について説明が行われ、下記の質疑の後、異議なく承認された。

◎) 学校からの推薦状況の中に、それぞれの学校から個人の部に27名、そして団体の部に7団体という推薦があったということで、これは延岡市内の小中学校の数からすると若干少ない数になっているが、これはそれぞれの学校から1件は必ず上げるというような推薦の方法ではないという考え方でよいか。

⇒) お見込みのとおりである。

◎ 協議事項

◆スポーツ大会・合宿誘致に関する取り組み（アスリートタウン推進課）

- アスリートタウン推進課長より、下記のとおり説明を行ったのち、協議を行った。

○延岡市の現状を踏まえ、この合宿大会誘致により、交流人口等の拡大を図り、地域活性化を目指したアスリートタウンづくりに取り組んでいるところである。

○本市の現在の主要な大会の開催状況について、ご案内の通り5月にはゴールデンゲームズ in 延岡を西階公園陸上競技場で、また2月には延岡西日本マラソンを開催している。市外県外から多くの方々が訪れるイベントとなっており、スポーツという枠を超えて、延岡を代表するイベントであると考えている。

○主な合宿の実施状況について、旭化成柔道部が中心となり、全国トップクラスの実業団、大学の選手が集結して行われている合宿がある。全日本男子代表チーム、オリンピック、世界選手権等の代表チームが参加する合宿である。以前は市民体育館で、今年の夏からは、アスリートタウン延岡アリーナで開催されている。11月にはラグビー静岡ブルーレヴズ、1月から2月にかけては、サ

ッカーJリーグベガルタ仙台、そして2月には女子サッカーのWEリーグのマイナビ仙台レディースがキャンプを行っている。

○今紹介した合宿以外の主な合宿について、ラグビーでは、東京オリンピックの7人制女子日本代表チームの合宿も行われている。また、静岡ブルーレヴズと同じリーグワンに所属しているNECグリーンロケッツ東葛のキャンプが行われている。また、陸上では、実業団、学生のキャンプが随時行われており、特に創価大学、早稲田大学の陸上部については、延岡西日本マラソンへ出場する選手が参加しているので、その前後で延岡で合宿をするという、嬉しい動きというか、合宿が定着しつつあるような状況である。また野球についても、学生や社会人の受け入れをこれまで行っているところである。

○合宿の会場となるスポーツ施設の整備状況について、令和9年開催の国スポ障スポを見据え、スポーツ施設の整備を進めている。まずのべおか waiwai アリーナについて、教育委員にもオープン前に視察いただいた。本市で初めてとなるネーミングライツ導入施設である。ネーミングライツパートナーは株式会社ケーブルメディアワイワイと、令和5年から7年までの3年間、年間200万円でネーミングライツ契約を行っている。本年4月27日に供用開始しており、サッカーやフットサル、また硬式野球、軟式野球の他にも、幼稚園や保育園などの運動会、また、高齢者のグランドゴルフ、さらにアリーナは2分の1、4分の1での使用もできるので、家族や友達同士の利用もある。災害時には、救援物資等の集積仕分けを行う防災拠点としての役割を担うことにもなっている。

○のべおか waiwai アリーナの建設工事費の概要について、建築主体から電気設備、機械設備、外構工事と、10億8500万ほどの事業費がかかっているが、西階公園自体が、県の地域防災計画において、災害時における後方支援拠点に位置付けられていることから、国の防災安全関係の交付金を活用し、また、起債に関しても有利な補正予算債という、充当率100%、交付税措置50%の起債を活用している。一般財源の支出も最小限にとどめており、有利な財源の確保に努めながら大型施設の整備を行っているところである。

○西階公園野球場について、国スポでは、成年男子の軟式野球、成年男子のソフトボールの会場となる。現在これらの競技会場としての基準を満たし、新たな機能などを備えた野球場として整備を進めているところである。令和7年度末の完成を予定している。この施設は、災害時においてはヘリポートや人的支援の受け入れ施設としての役割を果たすことになる。

○アスリートタウン延岡アリーナのサブアリーナについては昨年8月に供用開始されている。この施設は、国スポでは、柔道、体操、新体操、成年女子のバレーボールの会場となる。また、公開競技では、武術太極拳、パワーリフティング、障スポにおいては、バスケットボールと車椅子バスケットボールの

会場になる。

○同じくアスリートタウン延岡アリーナのメインアリーナについて、こちらについては、先日県から発表されたが、国スポのリハーサル大会の開催までに、完成が少し遅れるというので、国スポ自体が令和9年の開催で、令和8年度にリハーサル大会を行うので、令和8年度の初めごろに完成するものと思われる。

○大会合宿の誘致を進めるにあたり、県や他市、また民間団体との連携も行っている。まずスポーツキャンプ・大会誘致委員会について、これは国スポ障スポ大会後を見据えて、キャンプ・大会を戦略的・計画的に誘致する目的で県が設置したものであるが、この委員会に合わせて専門的に誘致活動を行うため、競技別に県が部会を設置している。延岡市においては、県の体育館があるので、屋内系競技部会というものに参加している。県、県の観光協会の他、延岡市、延岡観光協会で構成されている組織となっている。また、宮崎県ラグビー協会の会というものも同じく県が設置しているが、こちらは現在プロラグビーの合宿については宮崎市と延岡市しかキャンプを受け入れていない。そのためプロ野球やJリーグのキャンプシーズンも重複しないことから、リーグワンのキャンプを全県下に進めていくために設置されたものである。最後にみやぎフェニックス・リーグ支援実行委員会について、これはプロ野球のペナントレース終了後に、本県で10月に約1ヶ月間開催されている。みやぎフェニックス・リーグを延岡市に誘致するため、西階公園野球場が完成する令和8年秋に試合を誘致するために、本年度、この実行委員会に参画したところである。なお令和6年については、この1ヶ月間で、県内の10個の球場で162試合が予定されているので、西階野球場が完成した暁には10試合程度プロ野球の観戦が延岡市でできるということを目指し、今実行委員会の中で、いろいろと研究、勉強しているところである。

○今年度、こういった状況を踏まえて、誘致活動を行っている状況である。屋内・屋外競技とも、プロ社会人チームに対して様々な形でアプローチを行っている。この中で、屋外競技のラグビーについて、リーグワンの浦安D-Rocks、または屋内競技のバスケット、Bリーグの三遠ネオフェニックスについては、先ほど説明した県との連携の中で誘致活動を行っている状況である。また柔道については、旭化成の柔道部と連携して、西日本実業柔道連盟に対して、国スポのリハーサル大会として、令和8年に全日本実業柔道団体の対抗大会を誘致することを目的に、現在、協議また誘致を行っているところである。

○合宿するチームに対する支援の内容については、宿泊数や車を使った移動等に対する経費に関して、現在、助成を行っているところである。

○ホテル、旅館等への支援について、大会合宿誘致に取り組む中で、大きな課題の1つとして、延岡市内にプロ実業団等チームを受け入れることが可能なホ

テル旅館が少ないということがある。そのような中で宿泊施設の整備支援として、今年度、県が市町村スポーツ施設等整備強化事業費補助金というものを創設した。市としても、国スポ障スポに向けて、また国スポ障スポ以降の合宿大会誘致や、また観光振興を目的にホテルや旅館等が行う改修等への支援制度を創設したところである。

○プロ社会人のキャンプ受け入れ期間中には、チームの選手や監督コーチによるスポーツ教室を実施していただいているところであるが、さらなる交流の拡大を目的に、現在、こういったプロの合宿を契機とした地域間交流を行っているところである。ベガルタ仙台においては、延岡市内のサッカーチームの小学生が仙台市を訪問して、ベガルタ仙台の公式戦の見学や、地元小学生との交流試合、この交流試合というのはベガルタ仙台の公式戦における前座試合になるが、交流試合を実施したり、またあわせて、その期間中には被災地見学や歴史・文化を学ぶ取り組みを行っている。また、同じく仙台で、マイナビ仙台レディースについて、延岡市内サッカーチームに所属する女子小学生が仙台市に招待され、公式戦観戦とエスコートキッズ、入場する際に手をつないで歩く子どものことだが、こういったことを体験させていただいて、またこちらでも合わせて被災地見学や歴史・文化を学ぶ機会をいただいている。静岡ブルーレヴズについては、拠点を置く静岡県の磐田市と延岡市の中学生が隔年で相互交流を実施している。ラグビーの交流試合の他、お互いの市の文化や歴史を学ぶ機会をいただいている。最後にトヨタ自動車硬式野球部については、平成26年頃までの約10年間、西階野球場でキャンプをしていた。現在は沖縄県の方にキャンプ地は移動しているが、キャンプが移動になった後も、毎年延岡市で野球教室や野球部のOBの方によるキャリア教育なども実施していただいている。今後、こういったスポーツ大会、合宿誘致、受け入れを行うことにより、地域の活性化はもとより、子どもたちの競技力向上や、スポーツへの興味、関心の向上、ひいてはふるさと教育の醸成につなげていきたいと考えているところである。

◎) 施設が充実して、だんだんと延岡もそういう近代的な施設になって喜ばしいと思う。のべおか waiwai アリーナについて、一度開設前に行ったが、将来空調設備を設置するようなことは考えていないのか伺いたい。

⇒) 質問の内容については、この12月議会でも質問があったところではあるが、こののべおか waiwai アリーナについては、元々屋外競技が雨天時でも活用できる施設ということで設置したものである。また、本来は防災上の施設ということで、防災の役割も救援物資の中継地点ということになっている。施設の規模においても空調施設を

設置するには、基本的に大きいというところと、屋根等の構造上の関係から、今現在の構造では空調設備の設置は難しいという状況である。また県内の同様の屋内施設についても、空調設備が備えられている施設というのは、ジャイアンツがキャンプする宮崎県の本の花ドームには設置してあるが、その他都城市や日向市に設置されている屋内施設については、現在空調は備えられていないという状況である。

◎ その他

◆ 夏季休業期間について（学校教育課）

- 学校教育課長より、夏季休業期間に関する校長会からの提案内容について説明があった。

◆ 1月定例教育委員会の日程について（教育政策課）

- 1月定例教育委員会については、1月22日（水）の13時30分から、議会第2委員会室で開催する。

◎ 閉会

高森教育長が閉会を宣し、終了した。（14時30分）